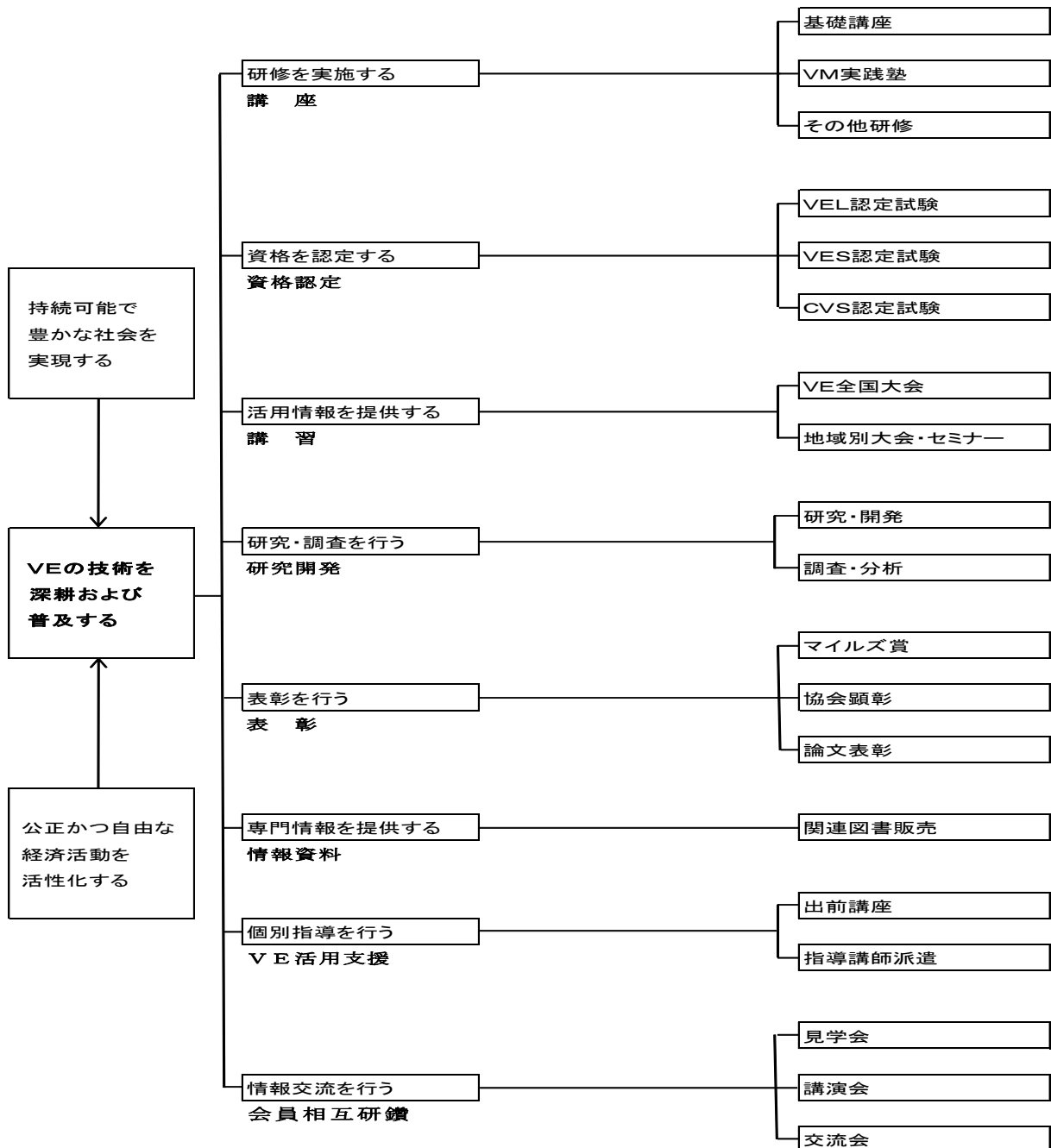


# 2017年度 事業計画書

( 2017年 4月 1日から2018年 3月31日まで )

2017年度も引き続き、(1) 持続可能で豊かな社会の実現、(2) 公正かつ自由な経済活動の活性化、(3) VE技術の深耕・普及等を目的に、次の各事業を積極的に展開して参ります。



# 1. 講座

ここでは、次世代のVEリーダー育成を目的に、基礎知識の講義と活用手順の演習をあらゆる業種・職種の人や学生を対象に行う「VE基礎講座」、実務での活用・実践力を備えたVE専門家の育成を目的に、開発設計VE等の講義・演習をVEリーダー（VEL）有資格者又はVE基礎講座と同等の内容を学んだ人を対象に行うテクニカルスキルコース等がある「バリュー・マネジメント（VM）実践塾」、VEの実践を担える人材の育成を目的に、VEの概要をまず知りたいという人やVEの導入・実践を考えている人に対してその人達が職場で実際に抱えている問題や課題でVEのワークショップを行う「VE塾」等を開催する。

※ 以下講座の講師は、CVS（Certified Value Specialist）及びVEスペシャリスト（VES）の有資格者に委嘱することを原則とする。

## 1) 「VE基礎講座」の開催

VEの基礎を学び、VEL認定試験の受験要件を満たせる講座として10回開催する。

## 2) 「VM実践塾」各種講座の開催

(1) 新入社員、若手社員向けにVE及び関連技法等を学ぶ「ベーシックスキルコース」を開講し、1講座を開催する。

講座名	開催日	会場
1日でわかる改善マインド入門	5月29日 3月2日	日本VE協会

(2) VES認定試験の受験要件を満たせる「ビジネススキルコース」として、7講座を開催する。

講座名	開催日	会場
アイデア発想で活用できる創造カトレーニング	6月9日	日本VE協会
社内研修効果を高めるインストラクション技術	7月28日	
独創的なアイデアを生み出すTRIZをVEで活用する方法	8月1日	
行動と結果を引き出す会議力向上	9月8日	
VE成果の確実性を高める特許取得の基礎と特許的創造法	10月4日	
提案を実行する技術プロジェクトマネジメントの基本	10月17日	
思考の基礎を体系的に学ぶ考えるスキルの基本	11月7日	

(3) 上記同様にVES認定試験の受験要件を満たせる「テクニカルスキルコース」として、4講座を開催する。

講座名	開催日	会場
業務革新のためのソフトVE	6月22日・23日	日本VE協会
事業戦略をデザインする企画段階のVE（4日間）	6月26日・27日 7月3日・4日	
開発設計のVE	8月24日・25日	
VEブラッシュアップ講座	9月25日・26日	

- (4) 米国 V E 協会のモジュール II セミナーに相当する「アドバンスコース」として、4講座を開催する。

講座名	開催日	会場
経営者を納得させる V E 提案書の書き方	7月21日	日本 V E 協会
V E チームを価値創造集団へと導くファシリテーション力	8月10日	
V E の原点的思考（機能分析中心）	8月30日	
V E を組織的に適用するためのマネジメント	9月11日	

- (5) 「ワークショップコース」を設置し、V E ワークショップ・セミナーを必要に応じて開催する。

### 3) その他研修会等の開催

#### (1) 「V E の基礎」通信講座の開講

地理的・時間的な都合等で通学講座の受講が難しい人にも、V E の基礎を学び、V E L 資格認定試験の受験資格を得られる機会を設ける。

#### (2) 西日本支部（中四国・九州地区）での V E 塾の開講

V E 塾という名称の V E ワークショップ・セミナーを広島及び九州の両地区で開催し、その成果を発表会で公表する。

#### (3) 西日本支部（東海地区）での V E 技術情報交流会の開催

V E や V E 関連技法、話題の改善技法等をテーマに演習（ワークショップ）とディスカッションを行い、参加企業での導入・展開を支援する。

#### (4) V E コンサルタント養成講座の開催

社内外に関わらず実践活動での指導や自社テーマを用いた研修ニーズに対応するため、“V E 視点に立ったコンサルティング”のできるコンサルタントを養成する。

#### (5) 「経営者フォーラム」の開催

経営者層に V E を理解し組織での V E 活用を促進してもらえようとするための「経営者フォーラム」を、理事会と同じ日に 3 回開催する。

#### (6) その他 V E 関連セミナーの開催

原価企画セミナー等を、必要に応じて随時開催する。

#### (7) 公共機関での V E 技術者育成支援

行政機関等で構成されている「全国設計 V E 推進研究会」を支援すること等で、公共機関での V E 技術者育成を支援する。

## (8) C V SによるV E技術者育成支援

「C V Sフォーラム」において、V E技術者の育成を支援するための活動を行う。

## (9) 教育機関におけるV E導入促進と普及

大学でのV E教育を支援するほか、E S D (Education for Sustainable Development) やP B L (Project Based Learning)、A L (Active Learning) へのV E導入を促進する。

## (10) 海外でのV E教育支援

- ① J E T R O (日本貿易振興機構)、H I D A (一般財団法人海外産業人材育成協会)等、在バンコクの関係団体と連携し、現地の自動車業界人材育成事業におけるV E関連の指導を必要に応じて支援する。
- ② 上海V E協会が開催する中国でのV E研修等を支援する。
- ③ 韓国国内において(株)韓国V Eコンサルティング等が開催するV E研修(V E L受験資格要件を満たすもの)の実施等を支援する。
- ④ フィリピン経済開発庁(N E D A)発注の公共事業を受注した現地コンサルティング会社が行うV E研修を支援する。

## 2. 資格認定

ここでは、企業・団体等の組織でV E活動のリーダーを務めるために必要な基礎知識を習得していると認められた人に授与される「V E L」資格、責任者・担当者としてV E活動の実施・推進の任に就くV E専門家として備えるべき諸知識や技術を習得していると認められた人に授与される「V E S」資格、V Eに関する知識・技能・経験が極めて高い水準に達していると認められた人に授与される「C V S」資格の認定を行う。

また、有資格者を対象とした継続教育のための冊子「バリュー・コンピテンシー」誌及び「バリュー・エンジニアリング」誌の編集・無料配付や、V Eに関する知識及び技術水準等向上の機会提供を目的に、V E S又はC V Sの活動分野や活動内容等を情報公開(希望者のみ)するデータベース「V E専門家検索システム」の運用も行う。

### 1) 資格認定制度の整備・体系化

米国V E協会が予定している“C V S資格認定制度改定”への対応を検討する。

### 2) 資格認定試験の実施

第43回 V E L 認定試験	4月18日～ 7月31日【C B T方式】
第44回 V E L 認定試験	9月 1日～ 2月28日【 ” ” 】
第20回 V E S 認定試験	12月 2日
第38回 C V S 認定試験	10月14日

※ 上記のほか、タイ、中国でV E L認定試験を実施し、その他海外での同試験実施のための調査・準備を行う。

### 3) V E L 有資格者の継続教育

V E L 有資格者のスキルアップに役立つ内容のセミナーを、必要に応じて随時開催する。

### 4) 「バリュー・コンピテンシー」誌の編集・発行

主に V E L 有資格者（A 登録者）の総合的なスキルアップと V E 技術者としてのキャリア形成支援を目的に「バリュー・コンピテンシー」誌の電子版を編集し、季刊で 4 回発行する。

### 5) 「バリュー・エンジニアリング」誌の編集・発行

C V S 及び V E S 有資格者の V E 技術水準の維持・向上を主目的に、V E 活動事例や V E に関する研究成果・国内外各種文献情報等を収載した「バリュー・エンジニアリング」誌を編集し、年 4 回発行する。

### 6) V E 専門家の紹介

協会 Web Site 内に「V E 専門家検索システム」を設け、同システムへの登録を希望する C V S ・ V E S 有資格者を広く一般に紹介する。

### 7) 更新登録の実施

V E L、V E S、C V S 登録者の更新登録（V E L ・ V E S は終身登録を含む）を行う。

## 3. 講 習

ここでは、V E 活動推進の参考になるノウハウやヒント、さまざまな関連情報の提供を目的に、V E に興味がある人や V E L 等の有資格者、学生等を対象とした「V E 全国大会」、V E 関西大会等の「地域 V E 大会」、及び V E 阪神セミナー等の「V E セミナー」を開催する。

#### 1) 「第 6 回 V E アジア大会 兼 第 50 回 V E 全国大会」の開催

会 期	10月24日～25日【2日間】
会 場	アルカディア市ヶ谷

※ L. D. マイルズによる V A / V E 創始 70 周年を記念して、日本で 2 度目となる「V E アジア大会」を「V E 全国大会」と同時開催とし、海外からの参加者も多く募り、国際交流を深めると共に、アジアにおける日本 V E のプレゼンスを高める契機とする。

#### 2) 地域 V E 大会の開催（西日本支部 関西地区、中四国・九州地区）

大会名	開催日	開催地
第 49 回 V E 関西大会	2月16日	大阪府大阪市
第 61 回 西日本 V E 大会	（未定）	（未定）

### 3) VEセミナーの開催（西日本支部 関西地区）

セミナー名	開催日	開催地
VE 阪神セミナー	7月21日	大阪府大阪市
VE 京滋セミナー	11月10日	京都府京都市

## 4. 研究開発

ここでは、VEの適用領域拡大を目的に、学識経験者及び企業人が不便益という新しい視点に着目することで革新的なVE/VM領域の確立を目指す Fubeneki（不便益）& VE研究会等の「開発研究会」、実務で展開するためにVEの導入や水平展開を模索している人がVE推進や実践上の課題等について研究を行うVE推進部会等の「機能別部会」、2時間VE手法のさらなる洗練化や活用局面拡大等を目的に、ゼネコンや設計コンサルタントなど建設関連企業のVE入門者や推進実務担当者が具体的なテーマでの演習等を通じて同手法についての研究等を行う中部建設VE研究会等の「専門研究会」を設置する。

#### 1) 「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査等の積極推進

「不便益&VE研究会」を設置。不便益という新しい視点に着目して、使用機能でも魅力機能でもない第3の機能“不便益機能”を提唱し、不便益による価値創造、革新的なVE/VM領域の確立を目指す。

#### 2) 公共事業におけるVMの研究及び普及促進検討

「公共事業のVM研究会」において、公共事業の発注者がVEの段階別適用やVE活用のための人材育成及び組織作りについての研究を行うとともに、公共事業でのVE普及を促進するための施策検討や情報発信等を行う。

#### 3) 各支部での実務的研究の推進

##### (1) 機能別部会での研究活動

東日本支部に6つの機能別部会を設置してVEに関する実務的な研究を進め、その成果を報告会又はレポート（VE資料）等で広く公表する。

① マネジメント部会	② VE推進部会	③ マーケティング部会
④ R&D部会	⑤ ものづくり部会	⑥ 社会インフラ部会

##### (2) 専門研究会での研究活動

西日本支部の東海地区と関西地区に専門研究会を設置してVEに関する実務的な研究を進め、その成果を発表会又はレポート（VE資料）等で広く公表する。

東海地区	① 中部建設VE研究会
関西地区	① つかいやすいTRIZ研究会
	② 経営革新を生み出す生き生きVE研究会
	③ VEツール研究会
	④ 実践原価企画研究会
	⑤ サービス領域でのVE適用方法研究会
	⑥ 価値分析研究会

## 5. 表彰

ここでは、資源の有効活用による持続可能な社会の実現に向けたV E活用促進の奨励を目的に、V E活動で顕著な成果を挙げている企業又は団体の部門又は事業部門等を対象とした「マイルズ賞」、経常的な活動展開への動機づけや規模の大小を問わず企業等におけるV E活動の促進・活性化を目的に、研究開発、普及促進及び本会諸活動で顕著な成果を挙げた人又はグループを対象とした「協会顕彰」、V E技術水準の向上とV E活動のさらなる活性化等を目的に、バリュー・エンジニアや公的機関、学生等を対象とした「V E研究論文及びV E活動事例」の審査と賞の授与を行う。

### 1) 「マイルズ賞」の審査・授与

次の各賞について、応募のあった企業又はその事業部門、自治体など公共団体の審査をマイルズ賞規程にもとづいて行い、その結果授賞が決定したところの授賞式を「第6回V Eアジア大会 兼 第50回V E全国大会」で行う。

- ① マイルズ賞
- ② マイルズ賞本賞
- ③ マイルズ賞特別賞

### 2) 協会顕彰の実施

次の各賞について、顕彰規程にもとづき、V Eの研究開発や普及促進等について功績を挙げた個人や団体等に「第6回V Eアジア大会 兼 第50回V E全国大会」で授与する。

- ① 研究開発功績賞
- ② 普及功労賞
- ③ 協会賞（V E経営者賞、V E功労賞、V E国際功労賞、V E特別功績賞、V E学術功績賞、普及功労特別賞、V E活動優秀賞）

### 3) V E研究論文及びV E活動事例の審査・表彰

V E研究論文及びV E活動事例を「第6回V Eアジア大会 兼 第50回V E全国大会」の開催にあたって募集。応募のあった論文及び事例の審査を「論文審査委員会」で行い、その結果入選となったものの表彰・発表を同大会で行う。

## 6. 情報資料

### 1) 研究成果の資料化

「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査や、各支部での実務的研究の成果をV E資料として纏め、公表する。

## 2) VEテキスト・教材・関連資料等の発行

- (1) 「第6回VEアジア大会 兼 第50回VE全国大会」VE研究論文集・資料集、VE普及のための図書等を発行するほか、ワークシート、アイデア発想ラベル・機能定義カード、VELバッジなどVE実施や推進のためのアイテムを販売する。
- (2) 期間限定のキャンペーンや無料サンプル配布を随時企画し、上記図書等やアイテムの販売を促進する。

## 3) VEテキスト・関連資料等の外国語版の発行

- (1) 講座テキストやVE資料等を英語、中国語、タイ語、スペイン語等に翻訳し、発行する。
- (2) 特に中国語版については、上海VE協会の協力を得て、VE解説書の『利益を生み出す方程式』などVE関連の資料図書を発行する。
- (3) 米国VE協会が発行した「Function Analysis Guide」（VE資格認定制度改定の骨子）を日本語訳し、販売する。

## 4) VE関連書籍・資料・教材等の販売

VEの学習及び研究、普及促進に資するため、VE関連専門図書を仕入れて販売する。

## 5) VE研究論文のネット販売

協会Web Site内に開設したVE論文検索・購入サイト「VE論文navi」で電子化した過去のVE研究論文を販売する。

# 7. VE活用支援

## 1) 出前講座の実施及び指導講師の派遣

- (1) 企業・団体等からの要請に応じて出前講座を実施、又は指導講師を派遣し、VEの個別指導、コンサルティング等を行う。
- (2) 出前講座及び講師派遣は、提携先の上海や韓国などアジアを中心に、海外にも展開する。

## 2) VEワークショップ・セミナー（48時間以上）の認定

企業や団体が主催するVEワークショップ・セミナー（48時間以上）のうち申請のあったものについて審査・認定を行い、その修了者がVES認定試験の受験要件であるVE学習経歴を満たせるようにする。



## 8. 会員相互研鑽

### 1) 見学会・講演会等の開催

各支部において各種の見学会・講演会等を活動計画にもとづいて開催し、V Eに関する情報交流を行う。

## 9. 広報活動

### 1) メールマガジンによる情報発信

メールマガジン「V E情報メール」を毎月1回発行し、V Eや本会に関する最新情報を積極的に発信する。また、主催する大会・セミナー等の案内や募集などP R活動にも積極的に利用する。

### 2) 協会Web Site等による情報発信

- (1) 協会Web Siteをインターネット上で運営する。情報の定期更新を行い、V Eや本会に関する最新情報発信のツールとして有効に活用する。また、ブログやFacebookと連携させることで、発信力の強化を図る。
- (2) 協会Web Siteに東日本支部専用のページを開設し、同支部の部会活動における迅速かつ効率的な情報発信を図る。
- (3) 本会サーバー内に大容量データアップロード用のサーバーを設置し、本会から会員等に対して動画等の大容量電子データも効率的に配信できるようにする。

### 3) 国土交通省 i-Construction 推進コンソーシアムへの参加

国や自治体・大学等の有識者、建設関連業界、I o Tやロボットの研究者等で構成されるi-Construction推進コンソーシアムにV E専門家を派遣し、V Eの活用を働きかける。

### 4) 他団体との連携による広報

連携に賛同いただける団体（商工会議所、経営者協会、各種工業会等）の会員企業に研修受講料や大会参加費の割引等を行うことで、V Eの普及促進を図る。

## 10. 会 議

### 1) 定時総会の開催

第7期 定時総会	6月14日
----------	-------

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

### 2) 理事会の開催

第21回	第22回	第23回
5月18日	8月31日	3月14日

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

### 3) 「本部企画委員会」の開催

理事会に合わせて、年度内に1～2回開催する。

以上